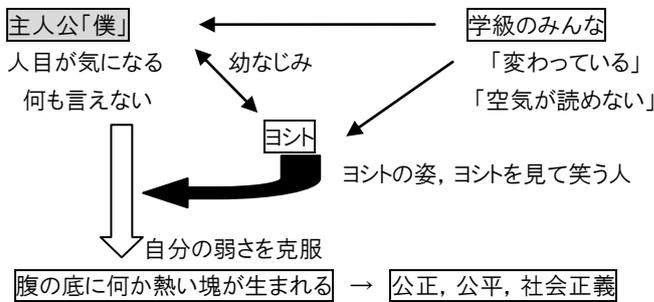


| | | | |
|------------------------------------|---|--|----------------|
| ①教材名 | ヨシト | ②内容項目 | C 公正, 公平, 社会正義 |
| ③教材分析 (中心発問で考えさせるために押さえておきたいこと) | <p>主人公:「僕」(アツシ) その他の登場人物:ヨシト, タカフミほか学級のみんな</p>  | | |
| ④ねらい (この教材で生徒に考えさせたいこと) | <p>ヨシトの捉え方が, 周りに流されてしまう僕。 内向きの正義→周りを意識した。自分たちさえよければ, 自分たちだけ。 外向きの正義→本当はどうあるべきか。集団の中にはいろんな人がいる。自分たちだけよいのではなく, さまざまな人を含めた集団の中の正義。 社会正義。Cの視点, 集団, 社会の中の在り方を押さえる。 中学生は, 間違っていることはわかっている。それができない弱さ。</p> <p>多数派がもつ偏見や差別の間違いと, それらに流されては正義が実現されないことに気づき, 同調圧力に流されず, 差別や偏見をなくしていこうとする態度を育てる。</p> <p>(主題名:いじめへの正義ある態度)</p> | | |
| ⑤中心発問 (ねらいを達成するための発問) | <p>腹の底に何か熱い塊が生まれた場面。 ヨシトがぐすくす笑われた怒りだけでなく, <u>自分への怒り</u>も考えさせたい。周りに流された態度を取っていたことに対して。 中心発問:腹の底に熱い塊を感じた僕は, 何を考えたのだろう。 →「熱い塊は何だ」と聞くと「怒り」等ばかりになってしまうので 20~25分くらいかけて問えたら。</p> | | |
| ⑥問い返し発問 (中心発問をさらに深める発問) | <p>(中心発問への)予想される生徒の意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流されそうになった自分へのいら立ち。 ・わかっているけど多数派に流された弱さがある。同調圧力。周りの目を気にしてしまう。 ・クラスの人に流されそうになった。 ・ヨシトと自分たちをばかにすることへの怒り。笑われることはおかしい。 ・流されそうになったけど完全に流されていない。ヨシトのよさに気づいた。ヨ | <p>問い返し発問</p> <p>→なぜそんな弱さが出てきてしまうんだろう。</p> <p>★中学校のポイント:人間の生き方。人間の弱さを押さえる。</p> <p>「よりよく生きる喜び」につながる?Dの視点になってしまう?</p> <p>→人間の弱さを, 「公正, 公平, 社会正義」で考えさせる。同調圧力, 集団のマイナス面。みんなを幸せに</p> | |

※発問検討の記録です。動画で紹介していない部分も含まれています。
 ※記録のため, 誤字脱字などが含まれている場合があります。

| | | |
|--|---|---|
| | <p>シトのよさを見失いかけた。責める側になりかけた。</p> <p>→上記は、主人公が考えたこと。ここで終わらずに、「人間としての生き方」に持っていきたい。</p> | <p>していくよさも集団にある。集団の中 にいることによって生じる弱さ。</p> <p>集団の中で自分はどうかあるべきか。</p> <p>→なぜヨシトのよさを見失いかけたのだろう。</p> <p>自分事として考えるのは、教材から離れなくてもできる。</p> <p>教師自身も共感しにくい。人間の弱さをともに考える姿勢。</p> <p>「僕」という立場で考えさせることで、生徒自身を「僕」に自我関与させながら考えさせることができる。</p> <p>「傍観者にならないためには」と教材から離れて聞くと、生徒が「・・・」となってしまうことも。</p> <p>発問案：多数派に流されてしまう弱さ、それを乗り越えるためにはどんなことが大切なのだろう。</p> <p>→集団の中の一人ひとりを意識する。</p> |
| <p>⑦振り返りの発問</p> | <p>同調圧力に負けてしまう人間の弱さをつかんだ後、</p> <p>発問案：正義を発揮した経験はあるだろうか。（学級の実態によっては問えるか）</p> <p>→普段の生徒の経験をつかんでおいて、問う。</p> <p>→生徒に書かせてもよい（発表できなくても）。</p> <p>→中学生の経験は深いので、すぐ出てこないこともある。帰宅したあとに思い浮かぶことも。</p> <p>発問案：そうした正義を発揮した人を見たことがあるか。</p> | |
| <p>⑧基本発問、 補助発問など （中心発問にいたるまでに押さえておきたい発問）</p> | <p>導入：×「見て見ぬふりをしたことあるか」は問いたくない。</p> <p>導入：これまで、流されてしまったことはあるか。</p> <p>→内容に深く触れ過ぎないように。</p> <p>ヨシトのお母さんによく見ててね、と言われていた僕。</p> <p>基本発問①：小さい頃、僕はヨシトのことをどう思っていたのだろう。</p> <p>→小さい頃は「かわったやつ」とは思っていない。</p> <p>基本発問②：タカフミに言われて何も言い返せなかったとき、僕はどんなことを思ったのだろう。</p> <p>→言い返さず、自分を守ってしまった。</p> <p>基本発問③：紙を握りしめたとき、僕はどんな思いだったか。</p> <p>②と③はセットで聞く。</p> <p>基本発問①～③の意味を、中心発問のときに振り返るとよい。</p> <p>→それまでの板書が生きる。</p> | |

※発問検討の記録です。動画で紹介していない部分も含まれています。
 ※記録のため、誤字脱字などが含まれている場合があります。

| | |
|------------|---|
| <p>まとめ</p> | <p>教材をよく読む。行間まで読む。</p> <p>中学校：人間の弱さを，教師が生徒と一緒に共感しながら考える。その乗り越え方も。</p> <p>どのように問えば，多面的・多角的な考え方をさせられるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨシトのお母さんの視点も，さらっと考えさせる。←教師が問いをもっておくのが大事。 <p>中学生は，教師の思っていないようなことを，ポンと出してくる。</p> <p>ダイヤモンドの原石。</p> <p>生徒が，教師も思っていないような多面的・多角的な考え方を出してくることがある。</p> <p>読み聞かせのあと，最初のひとことをどう切り出せばいいのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どう思った？と感想をさらっと聞く。1, 2 名，短く。 そのとき，生徒からズバッと核心めいた意見が出ることもある。 <p>人間の生き方を考えさせる「間」があってもいい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「思いやりを考えよう」と問うた後，「はい，誰が出てきた？」のように，指導案通りに進めようとするのではなく，生徒の思考に寄り添って流す。 <p>形式化した授業にならないようにするには。</p> <p>教材を読み，指導要領を読み，指導案を作る。</p> <p>中学校で道徳を研究する成果</p> <p>→教科の授業も変わる。教師が喋らない授業ができるようになる。</p> <p>生徒を射抜くような発問を皆で考えることが，自分の教科にも生きてくる。</p> |
|------------|---|

※このワークシートで検討した内容を指導案に転記すると，スムーズに指導案を作成できます。